

顎の弛緩した

筋組織

緩んだ筋肉の筋

パスタが茹で上がつてほぐれたみたいに茹で上がつた筋組織が真下に垂れていく

真夏の顎

季節は真夏の顎

顎の

アイスクリームチョコミントがとつけてポタポタ垂れてかたも溶けて背中も溶けて顎と顎の隙間からのぞいている

舌先

はあはあと犬がはあは安全な怖い犬
が

ちらつく前の湿った空間をナメクジが
通つた跡を拭つていく「はあはあはあはア
ハアハああはああはああはああはアハ
アハああはああああああはアハアハは
あはあああはああはあああ歯医者に行
こうとアイスクリームチョコミント味
の歯磨き粉を溜飲した子供が歯医者に
見せようと口の中をかけていくのを放
つたすらに背中がわの圧倒的な
圧倒的な重さが

スクリーンに向かつて迫り出していく

圧倒的な

圧倒的な重さが

お一旦 b 下に真下に重さを落としていく骨盤足をとおて重さを落として反射した重さがアルデンテの湯で県」おパ

スタ

の芯を通つて重さが真上に抜けていく
タイピングスピードの圧倒的文明の
スピードで船がやつてきて身体ごと運
び去つていいくのをやめないよう b にキ
ラサラ犬硫黄に硫黄島の香りが b なを
ついて鼻腔をくすぐる速度がゆつくり

に浸透していくを肩の破片が崩れて下に散らばる背中の破片も元いていうあうえ破片だらけの足も音足元

破片が刺さつて痛いから脚がステップを踏み出す足の裏に床下の探りを入れるために9番をつけてゆつくりと身体の内側の内臓へきに描かれた文字を読みにくために斥候を一人飲み込んで喉から溜飲していく食堂を胃を通つてゆつくり溜飲していく内臓の調査隊が何かを見つけて内臓壁の壁画の文字を読んでいくと身体が密談を始めて左腕が謀反を起こしてのほ反響音が響いてい

く右腕は止める役割を放棄して

腸から届くラブレターを全身に毒物を
飲み込むように飲んでいくと目玉を裏
返してせっし36・5度の血の塊の中
身を探りに入れて暑い汗ばんだ汗が一
滴首筋を流れ手河川を作り川が足から
流れていつて床がヨ水浸しになつてい
くので猫が喜んで猫が踊り出す猫ダン
ス

床に落ちたさつき落とした破片を拾お
うとしゃがんで目が合う
かれいなステップが

海底で泳いでいるたいのアクアパツツ

あが魚たちの踊り髪の毛がわかめの
　増えるわかめの物理法則を無視した増
　え方には困つて いるとははがいつてい
　るのを聞く耳が蝸牛の奥の蛇がウロウ
　ロウロしていくスピードにはついてい
　けぬとわかめがコンビニで帰るなんだ
　つてコンビニで買えるから逆に何も買
　えない貨幣価値の無碍にされたこの指
　先

　の祖先がせつかく盗んできた日を火を
　放つて放たれた火が燃え上がつて背中
　がわに無言で燃えて いる草原に燃えて
　いる

広がつて いる膝が 静かに 燃え て いるの
が 見える かすね げの 一本 一本 が 動いて
いる ので 足が 意思を 個別に 持つて タコ
の ように 改定を 進んで さつき あつた 力
レイ の ステップ と ダンスを しようとし
て 断られて 指先で 振動を 送る 奥歯が 振
動して いる 横揺れ 縦揺れ

噛み碎こうにも 碎けず に ひは も S

はも 観測でき ない まま俺は 指は 指で ダ
ンスする はむしろ 指から ダンスする 派
派 閥があつたら 入ろう と 思う 踊り たく
ない 人が 踊る 方法は 指で 踊る 方法う

重さがしたから突き上げて天↑葉を↑
天井を支える柱が鉄製でできた肘が柱
のて代わり鉄の肘で寝返りをう→鉄の
肘で
肘を鉄に
鉄についた肘で
振動を重ねて身体のあちちを伝えてい
くのは誰の役割かシンバルの音が病ん
でいくうちに斥候が一人背中に丘を作
つて兵隊の大群を連れていく腸内へき
がが見つかつたと喜んだ一軍がサバン
ナをかけていく動物の群れのように身

体の周りの文字を食べ、「つよよ」と踊つていくるのを身体の周りのルーン文字が読めなくて顎が揺れる神が揺れる

腹が揺れるタワシが揺れる目が揺れる
ヘソが揺れる天井が揺れるアバギが揺れるキーマカレーが揺れる指が揺れる
スマホが揺れるスクリーンが揺れるお金が揺れる

いじの力を抜けよという声が揺れる
波、「こんが揺れる指の指示をまもつ
らない身体がうう／＼」猫が揺れる犬
お揺れる魚が揺れる

肋の間に湖があつたことを思い出した

からその水をこぼさないように運ばなければならぬ一滴も残らずに流れた湖の渦に巻き込まれた筋肉たちが螺旋状のダンスパーティに巻き込まれたくない眉毛が痙攣と歯向かう身体の世界大戦に右腕の戦闘機が飛んでいく 29の一爆撃で焼けた街の中で

祖父か

腸内に描かれたびっしりの文字群を引っ張り上げるための穴はどこ？もう塞がっているのかあの小穴からは隣の世界の何かが見えたというのにそこにロープを垂らして sagat teiku びっしりと日つつつつつつつつつつつつつつつつつつつつつつつつつしおと繋がれていく体壁壁を登つて向こうに逃げる体をもう負わなくていいいろんな象形文字が浮か

び上がつては消えていくことがダンス
なのかと書き記されている書物の文字
を残らず食べなければダンスの先生は
許してくれないというポリス的拘束か
らの闘争を逃走を図つていく子供が力
カティク平原をどこまでも向かつてか
けていく逃げていく